

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	1	事業名	巡回による「課題抽出調査」の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	秋元 昌人	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	1	施策名	個社支援強化のための支援体制づくり		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

県連合会が示した今後10年間の事業者数シミュレーションによると、当会地区内小規模事業者数は平成37年度には436人、16.7%減少すると予測されており、このままでは地域自体が衰退の一途をたどってしまうという危機感から、小規模事業者の減少速度を鈍化させるための支援が最優先課題であった。

2. 事業のねらい

巡回による「課題抽出調査」から、個々の実態を把握した上で支援内容の質の向上に取り組むとともに、業種別に担当を配し、より踏み込んだ個社支援を実施。専門家派遣を伴う高度な課題に対しては、チーム支援により、複数の視点で協議し課題解決へと取り組む。

3. これまでの評価結果	過年度	H29	A	H30		H31		H32
--------------	-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

巡回件数及び解決提案等の実績も目標を達成している。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

継続して、目標達成に取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
平成29年度に未実施だった会員事業所に対して「課題抽出調査」を実施。	195会員事業所に対して実施	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	巡回件数/指導員1人【単位:件】					項目	解決提案・実行支援の割合【単位:%】					項目						
	H29	H30	H31	H32	H33		年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	560	520	500	480	480	目標	15	30	40	45	50	目標						
実績	610	648				実績	31	36				実績						
達成率	109%	125%				達成率	207%	120%				達成率						
達成度	a	a				達成度	a	a				達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

事業所の実態や課題等を把握するために、巡回は必要である。また、支援の成果を高めるためには解決提案型の支援を増やす必要がある。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

巡回件数並びに解決提案・実行支援の両方ともに目標を達成した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

個人で取り組んでいる支援でも、必要に応じて3名の経営指導員で改善策を検討し、効率性や効果が高められるよう取り組んでいる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

平成30年度で全会員の課題解決調査は終了したことから、今後は、調査結果を基に的確な支援が期待される。

3. 課題

課題解決調査結果を支援に活かせるよう検討する必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

調査結果を分析し、会員事業者を課題ごとに分類し、情報提供も含めた確な支援に繋がられるよう取り組む。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	2	事業名	チーム支援の積極的活用			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	秋元 昌人	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	1	施策名	個社支援強化のための支援体制づくり		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

県連合会が示した今後10年間の事業者数シミュレーションによると、当会地区内小規模事業者数は平成37年度には436人、16.7%減少すると予測されており、このままでは地域自体が衰退の一途をたどってしまうという危機感から、小規模事業者の減少速度を鈍化させるための支援が最優先課題であった。

2. 事業のねらい

巡回による「課題抽出調査」から、個々の実態を把握した上で支援内容の質の向上に取り組むとともに、業種別に担当を配し、より踏み込んだ個社支援を実施。専門家派遣を伴う高度な課題に対しては、チーム支援により、複数の視点で協議し課題解決へと取り組む。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

チーム支援に積極的に取り組んでいる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

具体的な目標をもって、チーム支援に取り組むようにする。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
補助金申請やマル経案件等について指導員間で計画書の内容について意見交換などを実施	補助金案件9件 マル経案件14件	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目					項目						
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

職員のスキルアップや個々人の能力を組織として活用するためにチーム支援は重要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

個社支援では、特別な目標設定はしていないが、戦略2でOJT実行時間を目標に掲げ達成している。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

事務分掌の作成にあたっては、複数制による多能工職員の育成を目指していることから、新人の育成及び主担当が不在でも対応できるよう取り組んでいる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

アクションプログラムでは、具体的な目標を掲げていないが、チーム支援を行えるよう事務分掌により明確に取り組んでいる。また、経営支援員が経営診断レポートを作成する際には、経営指導員がサポート役になり資料の作成から改善提案まで行っている。加えて、経営指導員においては各自手掛けている経営革新の申請等においても3名の経営指導員で協議し、より良い支援策を検討している。

3. 課題

チーム支援については、積極的に取り組んでいるが、具体的目標を設定していないことから、正確に評価できない。

4. 今後の対応方針(改善点)

OJTだけではなく、チーム支援の具体的な目標を掲げ、チーム支援の精度を高められるよう取り組む。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	3	事業名	既存事業者と農業者の交流によるビジネスチャンス拡大			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	小笠原 正武	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	2	施策名	地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

3. これまでの評価結果	過年度	H29	B	H30		H31		H32
--------------	-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

事業者になりうる農業者会員の増強に取り組んでおり、販路拡大に繋がる交流までは至っていない。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

出来るだけ早く、20名程度まで増やし、組織化できるよう全力を尽くす。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工業者と芸術家との意見交換会を開催	商工業者4名と芸術家3名の出席により意見交換会を開催したが、年度内に成果は出なかった。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目						項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性	現状の課題に	a(対応している)	b(一部対応している)	c(対応していない)	b
------------------------	--------	-----------	-------------	------------	---

〈評価の理由〉

地域資源とも考えられる農業者と芸術家と連携した既存事業者の新たなビジネスチャンスの創出への取り組みは、当地域について重要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況	事業内容・評価指標の実績の達成度が	a(すべてa判定の場合)	b(a,c以外の場合)	c(いずれかがc判定の場合)	b
--------------------	-------------------	--------------	-------------	----------------	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

現状では、事業者になりうる農業者の会員増強にとどまっており、交流やビジネスチャンスの拡大までは至っていない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況	コスト縮減の取組は	a(客観的で効果が高い)	b(取り組んでいる)	c(取り組んでいない)	c
----------------------------------	-----------	--------------	------------	-------------	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

効率性を判断できる状況まで至っていない。

2. 総合評価・理由	A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合	B(概ね順調)A、C以外の場合	C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
------------	---------------------------	-----------------	--------------------------------	---

事業者になりうる農業者会員の増強に取り組んでおり、販路拡大に繋がる交流までは至っていない。

3. 課題

農業会員を20名程度まで増やす取り組みを行っているが、現在は10名程度に留まっている。

4. 今後の対応方針(改善点)

出来るだけ早く、20名程度まで増やし、組織化できるよう全力を尽くす。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	4	事業名	農工商連携、6次産業化、グリーンツーリズム施策の活用強化	戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	小笠原 正武	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	2	施策名	地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

3. これまでの評価結果	過年度	H29	A	H30		H31		H32	
--------------	-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----	--

農業関連者に対する支援を積極的に行っている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

継続して、目標達成に取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
農業関連事業者に対して各種施策の活用支援	補助金 5事業所 経営力向上計画 1事業所	C

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	各種施策の活用支援【単位:件】					項目						項目						
	H29	H30	H31	H32	H33		年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	6	9	12	15	15	目標						目標						
実績	12	6				実績						実績						
達成率	200%	67%				達成率						達成率						
達成度	a	c				達成度						達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	C
--	---

〈評価の理由〉

既存事業者の販路拡大やビジネスチャンスの創出のために農工商連携や6次産業化の促進は重要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	C
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

各種施策の活用支援に取り組んでいるが、現状では事業者になりうる農業会員の加入促進に力を入れていることから、評価まで至っていない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	C
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

現状では事業者になりうる農業会員の加入促進に力を入れていることから、評価まで至っていない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	C
---	---

現状では事業者になりうる農業会員の加入促進に力を入れていることから、本来の目標達成につながる取組みまで至っていない。

3. 課題

出来るだけ早く、事業者になりうる農業者会員数を20名程度まで増やせるよう取り組む。

4. 今後の対応方針(改善点)

農業会員の増強に向け、商工会の事業計画や人事評価に評価項目にも掲げ、組織全体として取り組む。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	5	事業名	事業者の誘致促進及び創業支援強化			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	秋元 昌人	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	2	施策名	地域の強みを最大限に活かしたビジネスチャンスの拡大		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

本地域は、県都秋田市ではあるものの風光明媚な田園風景が随所に見られることから、芸術家のアトリエや6次産業化に取り組む農家が多く存在している。本地域への芸術家や事業者への誘致、6次産業化を目指す農家が増加傾向にある中、秋田市も機構改革を行い「産業振興部」「観光文化スポーツ部」を創設し各種施策を強化している。

2. 事業のねらい

基幹産業を担う農業者を対象に、各種施策を活用し6次産業化への支援を行うとともに、既存事業者とのマッチングを促進し、ビジネスチャンスの拡大を図る。また、地域内の空き家等に対して芸術家や事業者の誘致を促進する「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトについては、引き続き地域の経済波及効果を高める取組を実施する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

積極的に創業支援等に取り組み、目標を達成することが出来た。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

継続して、目標達成に取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工業者と芸術家との意見交換会を開催	事業者の誘致には至らなかった	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	事業者の誘致(創業支援含む)【単位:件】					項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標	1	1	2	2	3	目標						目標					
実績	1	0				実績						実績					
達成率	100%	0%				達成率						達成率					
達成度	a	c				達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	c
--	---

〈評価の理由〉

誘客の要ともいえる芸術家を増やすことにより、既存事業者にとってもビジネスチャンスの拡大にもつながる。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	c
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

芸術家のアトリエとなる空き家が少なくなり、創業希望者がいてもマッチする空き家がないため、創業までいかない状況である。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	c
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

上記の状況から、コスト削減まで至っていない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	C
---	---

空き家を活用した芸術家の移住定住はゼロであった。また、アトリエを持ちたいという相談があっても、見合う物件がなかったことから創業に関する支援もできなかった。

3. 課題

紹介できる空き家情報を如何に増やせるか。

4. 今後の対応方針(改善点)

出来るだけ空き家物件を確保できるよう、空き家を取り扱うNPOや地域の自治協(町内会長)や会員から空き家情報を提供していただくよう連携を強化する。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	13	事業名	広域連携による効率性の高い事業の構築			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	秋元 昌人	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	7	施策名	広域連携による効率性の高い事業の構築		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

講習会などを単一の商工会のみで開催するだけでなく、内容に応じて他の商工会と連携し、効率を高める事業実施が求められている。

2. 事業のねらい

従来の枠組み(男鹿潟上南秋河辺エリア)だけに捕らわれず、各商工会や隣接する商工会議所、関係機関等との事業・業務連携、組織連携の可能性を模索し、効率性の高い事業を構築する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

積極的に連携して講習会を開催し、多くの講習会に参加できるよう取り組んでいる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き、目標達成に向けて取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
実施する講習会を当会だけではなく、他の商工会員も参加できるように門戸を開いた。	消費税講習会2回(当会会場・潟上市会場) 新春のつどい後援会	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目						項目						項目					
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

隣接する商工会等と連携し、効率性の高い事業を構築することは重要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

隣接する商工会等と連携し、2件の目標に対し3件実施した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

1商工会で実施するより連携することにより、コスト低減及び会員間連携にもつながった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

近隣の商工会と連携し、3つの事業を共催で行ったことは、コスト削減及び効率性の点からも評価に値する。

3. 課題

特になし。

4. 今後の対応方針(改善点)

地区内の支援員部会、経営指導員部会、事務局長部会で、連携できる事業を検討し、事業の継続並びに効率性について検討する。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	14	事業名	講習会等の広域連携開催による業務効率化			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	秋元 昌人	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	7	施策名	広域連携による効率性の高い事業の構築		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

講習会などを単一の商工会のみで開催するだけでなく、内容に応じて他の商工会と連携し、効率を高める事業実施が求められている。

2. 事業のねらい

従来の枠組み(男鹿潟上南秋河辺エリア)だけに捕らわれず、各商工会や隣接する商工会議所、関係機関等との事業・業務連携、組織連携の可能性を模索し、効率性の高い事業を構築する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

積極的に連携して講習会を開催し、多くの講習会に参加できるよう取り組んでいる。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き、目標達成に向けて取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
実施する講習会を当会だけではなく、他の商工会員も参加できるように門戸を開いた。	消費税講習会2回(当会会場・潟上市会場) 新春のつどい後援会	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	広域連携事業の実施【単位:件】					項目						項目							
	年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31		H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	2	2	3	3	3	目標						目標							
実績	7	3				実績						実績							
達成率	350%	150%				達成率						達成率							
達成度	a	a				達成度						達成度							

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

隣接する商工会等と連携し、効率性の高い事業を構築することは重要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

計画した事業を上回る実績であった。

a

〈コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

計画を上回る実績であったことから、経費面でも縮減できた。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

地区内の経営指導員や支援員が集まり、連携の内容を検討したことにより、計画以上の実績となった。

3. 課題

特になし。

4. 今後の対応方針(改善点)

地区内の支援員部会、経営指導員部会、事務局長部会で、連携できる事業を検討し、事業の継続並びに効率性について検討する。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	15	事業名	行政に対する要望と移転先の検討			戦略コード	5	戦略名	環境変化に強い商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	小笠原 正武	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	8	施策名	商工会館の早期移転		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

老朽化が進む商工会館への対応が急務となっており、平成27年度の検討結果から「秋田市行政施設への移転」を要望している。

2. 事業のねらい

行政施設に入ることで、行政との連携が取り易くなるなどの相乗効果。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

本所の修繕により喫緊の移転は免れたものの、移転先についてはまだ確定していない状況にある。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

秋田市へ市の遊休施設が活用できるよう計画的に要望する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
行政懇談会において、担当部局に対して要望を行う。	現状、適切な施設がないため、今後も要望を継続する。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	項目					項目	項目										
年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33	年度	H29	H30	H31	H32	H33
目標						目標						目標					
実績						実績						実績					
達成率						達成率						達成率					
達成度						達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

商工会館の老朽化が進んでいることから、修復並びに移転を含めた検討が必要

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	b
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

本所の修繕として平成29年度は屋根、平成30年度は北側壁の修復工事を行った(2年間で320万円)ことにより、今後10年程度は使用可能となった。秋田市には継続して移転先の候補をお願いしているが、喫緊の移転は免れることができた。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	b
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

コスト削減というより、会員に負担を求めず会館の継続的に活用できるよう取り組んでいる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
---	---

本所の修繕により喫緊の移転は免れたものの、移転先についてはまだ確定していない状況にある。

3. 課題

本所の修繕は、将来的には必要と考えられることから、修繕費用の引当も必要となる。そのため、10年以内に移転先を決める必要がある。

4. 今後の対応方針(改善点)

秋田市へ市の遊休施設が活用できるよう計画的に要望する。

継続事業評価シート

評価確定日 令和 元年 6月25日

平成30年度(2年目)

事業コード	16	事業名	地域振興専門委員会における費用引当てに係る協議			戦略コード	5	戦略名	環境変化に強い商工会		
商工会名	河辺雄和商工会	担当者名	小笠原 正武	総轄者名	小笠原 正武	施策コード	8	施策名	商工会館の早期移転		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

老朽化が進む商工会館への対応が急務となっており、平成27年度の検討結果から「秋田市行政施設への移転」を要望している。

2. 事業のねらい

移転する場合、または改修する場合であっても費用負担が発生することから、令和8年度を目途に費用を引きあてる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30		H31		H32
-----	-----	---	-----	--	-----	--	-----

解体等の費用として計画通り引当することができた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き、目標達成に向けて取り組む。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
費用の引当を実施。	目標額どおりの引当を行う。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	会館解体・改修費用累計【単位:%】					項目						項目						
	H29	H30	H31	H32	H33		年度	H29	H30	H31	H32		H33	年度	H29	H30	H31	H32
目標	10	20	30	40	50	目標						目標						
実績	10	20				実績						実績						
達成率	100%	100%				達成率						達成率						
達成度	a	a				達成度						達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

〈評価の理由〉

将来的には、河辺と雄和の商工会館を解体し、更地として市に返還する必要があることから、解体等の費用を計画的に引き当てる必要がある。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 事業内容・評価指標の実績の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(いずれかがc判定の場合)	a
--	---

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

平成29年度、30年度と2年続けて計画通り引当した。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

特になし。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
---	---

過去2年間は、解体等の費用として計画通り引当することができた。

3. 課題

平成30年度は、収支差額がプラスではあったものの、単年度としては収支差額が減少したことから、今後20%(150万円)の引当が困難となることが考えられる。

4. 今後の対応方針(改善点)

令和2年度以降20%の引当が困難と考えられることから、対応について検討する。